ラウタロ　高まり
LAUTARO
EL ASCENSO
sm
Inostroza, Muñoz, Benavides
イノストロサ、ムーニョス、ベナビデス

表 1

漫画

ラウタロ　高まり

LAUTARO
EL ASCENSO

Inostroza, Muñoz, Benavides
イノストロサ、ムーニョス、ベナビデス

sm

レビュー

アロンソ・デ・エルシージャにしてみれば、単なる漫画とはいえ、自分とは違うバージョンのマプチェ族「征服」物語が世に出ようとは夢にも思わなかっただろう。マプチェ族の英雄を描くコミックスは増えてきているが、中でもこのグラフィックノベル「ラウタロ」は、エルシージャの正統なる叙事詩に対する、優雅に知覚的かつ強力な視覚言語であるといえる。この作品は、フランシスコ・イノストロサとフェリペ・ベナビデスの脚本で、古典的アドベンチャーのグラフィックノベルを彷彿とさせるクラウディオ・ムーニョスの作画、コテ・カルバハルの誰にも成し遂げられなかった洗練された色使いで展開する。今回漫画化されたレフ・トラル物語の特長は、ナレーション構成と視覚的な詩学の上品な絡み合いであると思う。イノストロサとベナビデスは、ペドロ・デ・バルディビアと 150 人の槍兵に対するレフ・トラルとカウポリカンの勝利を、バルディビアがレフ・トラルにチェスの戦略を教えたフラッシュバックを中心に構成することで描く。こうすることで、レフ・トラルがどのようにスペイン人の戦い方を学んでバルディビアを打ち負かすことができたのかを、手っ取り早く効果的に描いてみせる。レフ・トラルの行動と現在のナレーションを関連させるために過去のシーンを上手く重ね合わせてあるので、チェスのレッスンとレフ・トラルの戦略との関係性を文章で説明する手間が省ける。

グラフィックノベルの最初の数ページから、レフ・トラルとバルディビアが戦場を同じような視点から見るという、視覚的な暗黙の了解が始まる。レフ・トラルとバルディビアがトゥカペル砦に到着した場面のミザンセーヌは、（グルンステンの技法でいう）視覚的な反響または交差であり、ここでは敵対者間の類似と差異が、言語なしに確立される。ラウタロの作画レベルは、コミックではあまり成功例がない視覚的な器用さで卓越している。ページ構成とコマ割りは、詩的ともいえるレベルでナレーションを補足する。例えば、ペドロ・デ・バルディビアが征服者たちの切り刻まれた体と炎上する砦を見る場面では、イノストロサ、ムーニョス、ベナビデスとカルバハルが力を合わせて征服者の長い時と慄きを 2 ページにわたって描写している。

この 2 ページでは、大きなコマの中の小さないくつかのコマでバルディビアの顔に刻まれる恐怖の瞬間を描く、視覚的なナレーションが展開する。カルバハルの色使いはこの 2 ページでかなり重要な役割を果たす。彩度には 3 レベルあり、バルディビアを背景と他の同行する征服者たちから区別している。まず、背景に色彩がないことで（レベル 1）、恐怖を効果的に表現するとともにバルディビア（レベル 2）に視線を移させている。この人物の主観的な視点が 2 ページにわたる小さなコマに描かれている。バルディビアは周囲よりも強めの色で描かれ、破壊のシーンを見る征服者の目の動きを追うコマは（レベル 3）、色のトーンはさらに強くなっている。色の組み合わせは、バルディビアの蒼白な顔と並置される、混沌とした殺戮のコマとよく合っている。このようにコミックの伝統的な四角い構成を使わないコマ割りの詩学を用いて征服者の戦略的思想の崩壊が映し出されている。この大きなコマの 2 ページ目では、小さなコマが整列しだして、バルディビアが我に返って自分の考えやおかれた環境を整理し始める状況が、ページの左上から視覚的なナレーションで流れてくる。この 2 ページは、ラウタロの作り手と、文章に頼らず時間、感情、思考過程を伝える視覚言語の可能性との間で洗練された協働作業を行った好例である。

最後に、レフ・トラルが戦略でバルディビアに勝ったことをフラッシュバックのチェスの試合で表現したことも、本全体の中では、現在と過去を区別するのに使われる視覚的なトリックである。過去のシーンは視覚的にはセピア色でガター（コマ間のスペース）の色は黒であるが、現在のシーンはカラフルでガターの色は白だ。このように、本自体が白か黒の枠が付いたコマとページにより構成されたチェス盤なのであり、ここではナレーション構成と視覚的な詩学がつながっている。これはグラフィックノベルの中でしか展開しえない。

著者は、偉大な英雄、優雅に知覚的な戦略家のレフ・トラルを、洗練された視覚言語とナレーション構成で表現している。このグラフィックノベルには、フランシスコ・イノストロサ、フェリペ・ベナビデス、クラウディオ・ムーニョス、コテ・カルバハルの才能を示す例が他にもたくさんあるが、この作品の芸術的な特長を強調するのは今見てきたところで十分と思う。
ラウタロのグラフィックノベルは、ポピュラーなグラフィックノベルという媒体とナレーション戦略、洗練されたビジュアルを組み合わせることで、エルシージャの叙事詩に対する視覚言語であるコミックの様式を上手に操って、狡猾な英雄レフ・トラルの勝利の物語を視覚化したものである。

サム・キャノン博士
シュリーブポート、ルイジアナ
2019 年 10 月 8 日

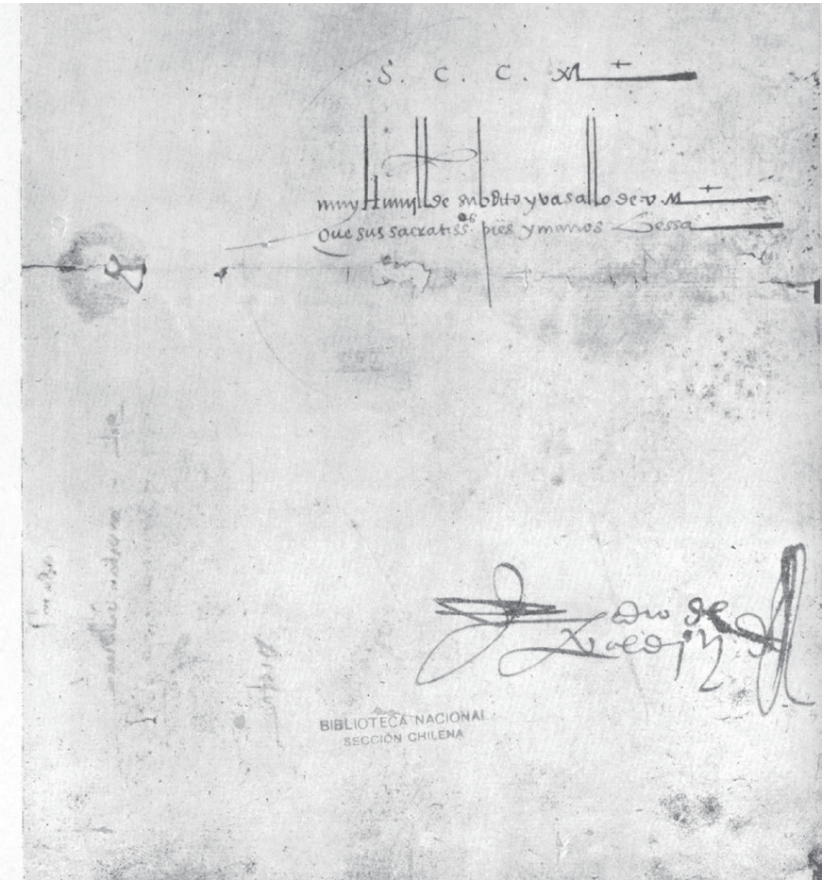
No.9 ラウタロ _92p （チリ）

皇帝カール 5 世にあてたペドロ・デ・バルディビアの報告書簡より

新エストレマドゥーラのチリと呼ばれる地を征服・植民、それ以南の土地を占拠せよとの命を受け、フランシスコ・ピサロ総督が治めるペルーからこちらに赴任して 5 年となります。この間ずっと、皇帝にお仕えする身でありながら閣下にご報告することができませんでした。

その後、領土を二分する戦が仕掛けられたとの知らせを受けまして、私は 90 人の兵と征伐に参り、町の警備は中尉と 50 人の兵（うち馬 30 頭）に任せました。私が留守にしている間に町が襲撃され、我がスペイン兵は一日中戦ったのですが、馬 23 頭と兵士 4 名を失いました。町も食糧も衣服も、所有していた荘園もすべて焼かれ、残ったのは着ている戦闘服と苦労して持ち帰った武器、そして雌豚2頭、雄豚1頭、雌鶏1羽、若鶏1羽、両手一杯の小麦のみとなりました。結局、夜も更けたころ、スペイン兵は隊長に気合を入れられ立ち上がり、全員負傷していたものの神のご加護により多数のインディオを殺し、討伐しました。これは先日、モンロイ大尉による、町が焼かれ多大な損失を伴った血に染まった勝利の報告でございます。

1545 年 9 月 4 日、セレナにて。陛下の最も忠実な臣下であるペドロ・デ・バルディビア


S. C. C. M
muy Humilde subdito y vasallo de v M
que sus sacratiss. pies y manos besa
BIBLIOTECA NACIONAL
SECCIÓN CHILENA

10

ペドロ・デ・バルディビア　1500-1554 年　皇帝カール 5 世へ、その II　ホセ・トリビオ・メディーナ、ビクトル・M・チアッパ、ラファエル・メリーベリッソ　「ペドロ・デ・バルディビアの書簡、チリの発見と征服について」　セビージャ「M. カルモナのタイポグラフィーの確立」　1929 年
www.memoriachilena.gob.cl/602/w3-arti-cle-8174.html

No.9 ラウタロ _92p （チリ）

13

14

15